（法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」）

令和３年度事業報告書

令和３年４月１日から令和４年３月３１日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

１　事業実施の実績

①　自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進

・ COVID-19（新型コロナウイルス感染症）の影響は続いたものの屋外開催を中心にするなどの対処法がおおむね確立したことから、前年度のような行事の中止などはほとんど無くなった。学校、企業などは感染者数の増加を見守りながら、多い場合には開催や参加を見合わせ、少なければ実施するという状況が年度を通して続いた。
・ 恒例の春の干潟観察会は望外の 200 名を越える参加者が集まった。例年 100～150 名で推移していたところ、急増し駐車場の確保が課題として浮かんだ。
・ 今年度から 3 年間の助成が決定した地球環境基金関係の事業として、環境月間の 6 月に中津市の協力の下 1 ヶ月近くの期間、市内大型店イオン三光において中津干潟のポスター、写真、映像展を実施した。来客も多く広く広報ができたものと考える。
・ 昨年度からはじめた 7 月 1 日の中津干潟の日記念行事は、今年、路上スタンディングと小幡記念図書館での写真展、そして初代理事長の足利由紀子の仕事展を実施した。本プログラムが定着するよう努力を続けていきたい。
・ 昨年度辞退した県の委託事業である子ども探険団に応募し、夏休みのガタフェス３（子どもアカデミア）、海ごみワークショップ、アカテガニ産卵観察会、秋の干潟観察会を実施した。また、県のまちづくり推進事業の委託にも応募し、中津の海の絵コンテスト、ポスター展示などを行った。
・ コープ大分の助成事業として、ベッコウトンボ観察会、春の干潟観察会、冬鳥観察会、海苔すき体験などを実施した。
・ 今回で 5 回目となる「中津干潟アカデミア・研究発表会」は昨年度同様、屋内行事であるため、観客を入れての開催はできなかった。代わりに YouTube を利用したネット中継を試み概ねうまくいった。内容としては、パネルディスカッション形式で、それぞれの専門の立場から川ゴミ問題について話した。市民との丁々発止の対話がこの催しのキモであることから、それができないことは残念という他ない。
・ 市民が気軽にネイチャーセンターに立ち寄る「ひがたかふぇ」は今年度実施できなかった。次期は zoom を利用して開催したい。
・ 主に小学校での自然授業、観察会はほぼ例年通りの実施となった。

・ 例年テレビ･ラジオ・新聞などへの取材協力を行った。NOASFM、朝日新聞、読売新聞、大分合同新聞、TOS 等から取材を受け、広報につながる成果を残した。

② 調査研究活動

・ 前期に続き、中津市より干潟及び野依新池の調査委託があった。干潟の調査では、アライグマ定点撮影調査を行い秋口によく見られることが分かってきた。海苔漁場の塩分濃度調査も継続し、それぞれ対策につなげたい。海苔漁場のデータについては県振興局にも提供した。干潟保全の提言書をまとめた。

・ カブトガニ関連の調査は、例年同様に産卵、幼生の個体数、混獲された成体などについて調べた。今年度は、キズのある個体が少なく、混獲される個体は多かった。また、例年より遅い時期まで網にかかった。

・ シギ・チドリの調査は、大阪南港ウェットランドグループをはじめ、協力者のおかげで、相対的にも中津干潟の重要性がますます高まってきたことが示された。地球環境基金の協力により来期にこれまでのレポートを冊子にまとめる予定にしている。

・ 野依新池の調査では、トンボ類を中心に植物、水生生物などについて行った。水深ロガーも設置したことから、発生との相関についても今後調べていきたい。中津市には、保全の提言書を提出した。また今期は、地球環境基金の協力で「野依新池レポート 2021」を作成・配布した。

・ 地球環境基金の協力で、ヨシガモによる捕食やブルーカーボン関連の知見を得るためコアマモのプレ調査を実施したほか、ベントス類についても適宜の調査を実施し、報告書をまとめた。

・ 水産大学校、日本文理大学など複数の大学の調査に協力すると同時に、当会の調査活動にも一部協力いただいた。

③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動

・ 海岸清掃、松林景観再生活動は、新型コロナウイルスの影響を受け、参加人数が伸び悩んだものの 5 月、9 月と 12 月の大新田で行うことができた。また、3 月の三百間ビーチクリーンは、３年越しで行うことができた。

・ 蛎瀬川のゴミ問題に取り組み、地元、県土木事務所とゴミ回収の方法などについて対話を重ね、次期早々にリバークリーンを行う事となった。また、例年開催されている中津干潟アカデミアのテーマを川ゴミとし、この問題について大学関係者など専門家の皆様かあら有用なご意見をいただいたことから、現場に反映していきたい。

・ 昨年中止となった県立工科短期大学校の海岸清掃と松林に取り組みは、今期実施することができた。また、城北中学校の全校生徒が参加し三百間浜でビーチクリーンを行った。さらに、小楠小学校が今年もビーチクリーンと松林整備を行った。

④　ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動

・　アカニシ染めのワークショップは、4 月に漁師レストランひだまりで開催した。当会としては高額な参加費ではあるが、春から初夏の定番行事として広げていきたい。

・　3 月に海苔すき体験のワークショップを実施した。おつきあいのあった田中徳一氏が急逝し、角木地区の海苔漁師は増田さんだけとなったが、毎回好評をいただいており今後も継続して続けられるよう努力したい。

⑤　自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信

・　ガタガタ通信は予定通り年 4 回発行した。

・　ＨＰのアクセス数は前期足利理事長の逝去という特殊な事態も関係して 50,000 件を越えていたが、今期は 30,000 件余りにとどまった。一昨年が 21,900 件だったこと考えると良好に見えるものの、さらなる増加を目指して HP をスマートフォン向けに改装する必要があるものと考える。

・　今期は、正会員向けにメールマガジン「ガタガタマガジン」を週 1 回のペースで発行した。これまでブラックボックスに近かった業務の内容が伝わったものと期待する。今後は、一般会員向けのメールマガジンの発行も検討したい。

・　環境保全や NPO 経営など各種の勉強会に 28 回ほど出席し、地域のオピニオンとしての役割も果たすため情報収集活動を行った。

・　2 月に保全の公的枠組みについての勉強会を開催した。文化庁、環境省などの機関が考える保全の枠組みについて総合的に学ぶことができた。さらに海と陸地の 30%を保護区にするという 30by30 に合わせ、新たに進められている OECM の最新の動向についても知ることができた。

⑥　民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など

・　舞手川河口で実施している養浜の試みが 7 年になるがカブトガニの産卵場所の確保と海岸の保全、河口閉塞の防止という面で効果を上げている。一昨年は県土木としては、この事業を継続するためには県民への理解が必要とのご意見を伺ったが、会としては全国に先駆けて行われたセットバック護岸の成立や維持、調整の過程を目に見える形にしていく必要があると考える。同施設は、東京大学の教科書の中に取り上げられたり、土木系高校の教科書に掲載される予定も分かっており注目度は高まっている。

・　野依新池に関連して、周辺環境の悪化が懸念されたため、県の自然保護推進室、及び農業基盤整備担当部署などに状況説明と悪化を防ぐための措置をお願いした。今後は、さらに保全に結びつく「県の天然記念物」の指定などを目指して活動したいと考える。

⑦　持続可能な社会を追究するためのその他の活動

・　組織基盤強化及び持続的な経営の確立を目指して徐々に分散化をすすめている。理事による定期的な情報交換会を実施するようになり、また、正会員の交流なども視野に入れている。今後も管理業務及び事業実施業務の分散化、組織の高齢化、関係者のスキル不足、若手の担い手不足など課題を一つ一つ解決していきたい。
・　上記の問題に対応して、事業マニュアルの作成を続けている。主な事業及び管理業務を皮切りに、業務内容のパッケージ化を引き続き目指したい。
・　経営ガバナンスは、当会にとって必須のものであり、理事、正会員がその意義を深く理解しておく必要がある。同時に、資金調達、文書管理、監査体制の確立を目指す。
・　「ひがたらぼ」が設置されて 6 年が過ぎたが、各所に老朽化が目立つようになってきた。しっかりとした建造物に更新するために、土地の確保、資金調達など課題は多いが、子どもたちの学習支援や社会教育、研究の拠点を維持発展していくため一丸となって取り組んでいきたい。

⑧その他

・　当初、今期も厳しい経営が予想されていたが、何とか繰越金を残すことができた。しかし、資金元のバランスを見ると自由度の高い資金の不足は続いている。この状況を変えるために会員や市民の皆様に一層の支援を求めることが必要になる。より多くの皆様に環境保全の価値を認めてもらい、活動に対する理解と支援をいただけるような工夫が求められる。
・　永年の活動が評価され「日本水大賞審査部会特別賞」を受賞した。これも活動を支えていただいた皆様のおかげと感謝したい。
・　ここ数年ネイチャーセンターの建設を目指しているが、ようやく一定の資金が蓄積されつつある。今後の経営状況にもよるが、一丸となって資金調達に奔走すれば夢を実現できるものと考える。

（法第28条第1項関係「前事業年度の事業報告書」）

令和3年度事業報告書

令和3年4月1日から令和4年3月31日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係わる事業

定款の事業名							
事業内容		実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲	受益対象者の人数	支出額（円）
① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進							
自然観察会	ベッコウトンボ観察会	5/3	野依地区	11名	市民他	20名	2,856,315
	春の干潟観察会	5/8	大新田	15名	市民他	215名	
	山国川おｻｶﾅ観察会	8/2	山国川	12名	市民他	21名	
	アカテガニ観察会	8/7	大新田	12名	市民他	46名	
	ガタフェス3	8/11	ひがたらぼ	12名	市民他	58名	
	真夏のトンボ観察会	8/21	野依地区	8名	市民他	14名	
	秋の干潟観察会	10/16	大新田	11名	市民他	90名	
	ｽﾞｸﾞﾛｶﾓﾒと冬鳥観察	12/6	東浜	12名	市民他	13名	
その他行事	ポスター・写真・映像展	6/12_7/7	イオン三光	9名	市民他	不特定	
	中津干潟の日スタンデ	7/1	中津市	9名	市民他	不特定	
	ポスター・写真展	7/1_7/12	市立図書館	2名	市民他	不特定	
	足利由紀子の仕事展	7/16_17	中津市学校	11名	市民他	100名	
	海の絵コンテスト	夏休み	中津市内	4名	児童	851名	
	ひがたかふぇ	中止	ひがたらぼ		市民他		
保育園での環境学習指導		2回	中津市	8名	園児	63名	
小学校での環境学習指導		20回	中津市・外	37名	児童	906名	
中学校での環境学習指導		1回	中津市	1名	学生	277名	
短大・大学の環境学習講師		1回	中津市・外	5名	学生	160名	
社会教育の場などでの講師		4回	中津市・外	6名	児童・市民他	71名	
企業・その他団体他での講師		6回	中津市・外	13名	児童・市民他	146名	
中津干潟NETアカデミア		12/19	小楠ｺﾐｭﾆﾃｨ	45名	児童・市民他	不特定	
マスコミ対応（主なもの）		2回	中津市	2名	市民他	不特定	
② 調査研究活動							
生物調査（カブトガニ）		26回	中津干潟	49名	市民他	不特定	2,691,804
生物調査（シギチドリ類他）		21回	中津干潟	58名	市民他	不特定	
生物調査（ベッコウトンボ・生息地）		19回	野依地区他	24名	市民他	不特定	
その他（ｱﾗｲｸﾞﾏ・漁場塩分・ｺｱﾏﾓ・ﾍﾞﾝﾄｽ）		35回	中津干潟	45名	市民他	不特定	
他機関との協働(大分生物談話会・水産大・日九州大・島根大・熊本県立大・長崎大・		13回	中津干潟他	13名	大学他	40名	
③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動							
ビーチクリーン	大新田海岸	5/23・9/12・12/12	大新田	37名	市民他	440名	
	三百間海岸	3/27	三百間	12名	市民他	70名	
	漂着物調査	1回	大新田	2名	市民他	不特定	

	学生への指導	2回	大新田他	3名	学生	426名	1,722,436
児童向海ごみ学習用冊子編集		1月	大分県内	1名	児童・県民他	不特定	
松林景観再生	一般参加作業	5/23・9/12・12/12	大新田	3名	市民他	40名	
	専門作業	9回	大新田	10名	市民他	不特定	
	学生への指導	2回	大新田	3名	児童・学生他	156名	
リバークリーン	蛎瀬川	1回	蛎瀬川	2名	市民他	不特定	
④ ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動							
帝王紫ワークショップ		4/29	ひだまり	6名	市民他	6名	63,417
海苔すき体験		3/20	ひだまり	13名	市民他	23名	
⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信							
会報誌発行		4回	国内	8名	国内	1600名	86,706
ホームページ維持管理		通年	国内	1名	市民他	31,194ｱｸｾｽ	
生物データベース管理		通年	国内	2名	研究機関等	不特定	
勉強会参加		28回	国内	28名			
公的保全勉強会		1回	今津	5名	市民他	10名	
環境イベント出展（社協NICOday）		10/31	教育福祉会館	4名	不特定		
⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など							
海と日本プロジェクト協力		8/7・8/8	小祝漁港	2名	市民他	38名	17,526
野依新池ボウリング調査助言		6/26・8/18	らぼ・新池	3名	行政・団体	6名	
アンケート協力（主なもの）		10回	ひがたらぼ	10名	行政・市民	不特定	
河川協力団体		通年	ひがたらぼ	2名	行政・市民	不特定	
野依新池ベッコウトンボ保全作業		11/21	野依地区	10名	行政・市民	30名	
学校ヒアリング協力		4回	ひがたらぼ	6名	学生	15名	
団体ヒアリング協力		8回	ひがたらぼ	8名	団体	10名	
五十石川連携ほか		通年	中津市内	2名	市民他	不特定	
蛎瀬川ごみ問題対応		5回	蛎瀬川	5名	行政・市民	8名	
海岸事業に関する検討		通年	中津市内	2名	行政・市民	不特定	
ﾍﾞｯｺｳﾄﾝﾎﾞ保全に関する検討		通年	中津市内	1名	行政・市民	不特定	
⑦ 持続可能な社会を追究するためのその他の活動							
「ひがたらぼ」運営		通年	ひがたらぼ	1名	行政・市民	不特定	487,326
NPO基盤整備		通年	ひがたらぼ	5名	行政・市民	不特定	
商品（ｶﾌﾞﾄｶﾞﾆｻﾌﾞﾚ・海苔他）販売		通年	中津市・外	2名	行政・市民	不特定	
ガタガタ広場水道設備運営		通年	大新田	1名	行政・市民	不特定	